

栗原貞子論

―反戦・反核・平和を掲げ行動する詩人として―

言語文化研究科日本語文化専攻博士後期課程

G 一六二三一

松本滋恵

目次

序章	1
第一章 詩歌集『黒い卵』と詩「黒い卵」論	7
―時代に翻弄された『黒い卵』と戦時下で詠まれた「黒い卵」―	7
はじめに	7
第一節 詩「黒い卵」の時代背景	8
第二節 『中国文化』（原子爆弾特集）の創刊号と詩歌集『黒い卵』の刊行	10
第三節 詩歌集『黒い卵』において検閲で削除された作品と自ら削除した作品	13
第四節 詩歌集『黒い卵』の意義	16
第五節 詩「黒い卵」を読む	19
第六節 貞子の固有性	20
おわりに	22
第二章 「生ましめんかな」論	25
―栗原貞子の原点としての「原爆創生記」を視野に入れて―	25
はじめに	25
第一節 詩人としての姿勢が確立された背景	26
第二節 詩「生ましめんかな」について	27
第三節 「原爆で死んだ幸子さん」について	30
第四節 「私は広島を証言する」について	33
おわりに	36
第三章 詩集『ヒロシマというとき』と詩「ヒロシマというとき」論	40
―個人史としての『ヒロシマというとき』と 被爆者も加害者と提唱した「ヒロシマというとき」―	40
はじめに	40
第一節 詩「ヒロシマというとき」の課題設定	41
第二節 時代背景としてのベトナム戦争	42
第三節 「ヒロシマというとき」詩作の直接的な契機	44
第四節 「序詞」について	44
第五節 詩の注釈	45
第六節 「ヒロシマというとき」を読み解く	48
おわりに	52

第四章 『詩集 未来はここから始まる』論

―貞子の苦悩を視野に入れて―

はじめに	55
第一節 「孤独と傷心」について	56
第二節 「孤立と傷心」からの脱却、そして未来へ	59
第三節 「未来はここから始まる」への土壌	61
第四節 「未来はここから始まる」を読み解く	61
第五節 『詩集 未来はここから始まる』においての「未来」、「ここ」について	65
第六節 「一度目は過ちでも／二度目は裏切りだ／死者たちを忘れまい」について	67
おわりに	70

第五章 詩人・運動家としての栗原貞子

―反戦・反核・平和を訴え続けて―

はじめに	73
第一節 議員夫人としての奔走	73
第二節 平和運動への展開	74
第三節 原水爆禁止世界大会への関わり	75
第四節 ベトナム反戦運動への関わり	77
第五節 日本YWCA「ひろしまを考える旅」への関わり	79
第六節 署名活動と座り込みの実践	81
第七節 海外での活動と国内での活動	82
第八節 核の問題への関わり	85
おわりに	86

終章	91
----	----